

## ランブリング名古屋城 ～その2～

名古屋城に茶室があるのをご存知でしょうか。  
今回、茶室も開放されていまして見学をしてきました。

「猿面茶席」は、名古屋城築城の際、古田織部の指図で清須城の古材で建築した茶席です。床柱に「猿の顔」のように見える部分があり、かつて清須城で織田信長が豊臣秀吉の顔に似ていると戯れた逸話から「猿面茶席」といわれています。国宝になっていましたが、戦争で焼失したため、復元したものです。

「織部堂」は、昭和30年に古田織部を称えるために建設されました。

「又隠（ゆういん）茶席」は千利休の孫の千宗担が造営した「又隠の席」の写しです。1772年頃に建てられたものを、名古屋城に移築しています。

「手水（ちょうず）鉢」は「名古屋城築城の時、加藤清正が大石を運ぶ車の輪に用いたと伝えられている石に、穴をほって手水鉢に利用していた」と言われるものです。



猿面茶席



織部堂



又隠茶席



手水鉢